

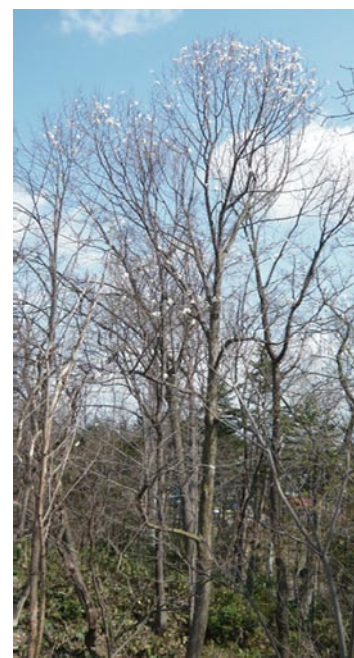
## キタコブシ

名称 和名：キタコブシ  
別名：エゾコブシ  
アイヌ語名：オマウクシニ（よい匂い？がする木）  
漢字表記：北辛夷（中国の「辛夷」はハクモクレンを指す）  
英名：Japanese magnolia, Thunberg's magnolia

学名 *Magnolia kobus* var. *borealis* Sarg.

分類 モクレン科モクレン属

分布 北海道・本州（中部以北）



生態・形態 山地や平野周縁部，沢沿いに生える落葉高木。他の樹種と混じって生育し純林は見かけられない。コブシの変種で葉や花が大型の北方タイプ。コブシの分布域が北海道～九州・朝鮮半島南部とされるのに対し，キタコブシは北海道と本州中部以北の日本海側とされる。

幹は直立し，高さ 20m，太さ 40cm 以上になる。樹皮は灰色で平滑，徐々に細かな溝がたくさんでき老木になるとイボ状に隆起する。枝は太めで円すい形の樹冠となる。小枝はジグザグくねったように着く。冬芽は 1 枚の鱗片で被われ長い絹毛に包まれる。頂芽は紡錘形で長さ 10～15mm，側芽は長卵形で小さく長さ約 5mm。花芽は枝先に着き長卵形で先がとがり長さ 20～25mm。葉は互生し，広倒卵形で幅広の先がやや急にとがり，長さ 10～17cm，幅 6～8cm，鋸歯は無い。花は葉の展開前に咲く。花卉 6 枚からなり径 10～12cm，淡紅色をおびた白色で香りがある。集合果はデコボコと形の良くないブドウのふさ状で長さ 7～10cm，秋，朱色に熟し裂開する。仮種皮は朱～紅色。集合果がデコボコなのは受粉が不完全な場合で，雌しべの多くがタネにまで発達できなかったことによる。このデコボコした形がにぎり拳（こぶし）のようで「コブシ」の名になったとされる。

母種名の *kobus* は日本名のコブシから。変種名の *borealis* は「北方の」の意味。

桜に先駆けて咲くキタコブシは，花の咲きぐあいから夏期の天候や農作物の出来が占われるなど，待ちわびた春を喜ぶ北国の象徴ともいえる樹種である。



若木の樹形



樹皮（径40cm級）



枝ぶり



花



果実（9月19日，旭川）

木材の性質 散孔材。緑がかった淡黄白色で心材・辺材の区別はあまり明かでない。年輪界は少々判別しづらい。軽軟，木理が通直，均質・緻密なことなど，ホオノキに類似した材質だが，通常，気乾比重がホオノキよりやや大きめで，ホオノキに比べ少し硬く，また刃切れが少し悪いとされる。



木口面



板目面



柁目面

主な用途 材の利用面では有用樹種とはされないが，材質のよく似たホオノキとほぼ同様に扱われ，玩具，漆器素地，家具，器具材，建築内装材などにされる。皮付きの小丸太が茶室の床柱などに利用される。

木炭はホオノキのもの同様，金，銀，銅の研磨用となる。つぼみは「辛夷（しんい）」とよばれる生薬になり頭痛・鼻疾患などに用いられる。樹木は公園・街路樹とされる。

物理的性質・機械的性質・加工的性質に関する数値等 ホオノキに準じる。

#### 参考

- ・原色日本植物図鑑 木本編【II】：北村四郎・村田源 保育社 1979
- ・図説樹木学－落葉広葉樹編－：矢頭献一・岩田利治 朝倉書店 1966
- ・落葉広葉樹図譜 冬の樹木学：四手井綱英・斎藤新一郎 共立出版（株） 1978
- ・知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編：知里真志保 平凡社 1976

（文責：石倉）